

6月11日（日） 海のプロセス－言葉をめぐる地図（アトラス） 関連事業

会場：東京都美術館 スタジオ

① 第1部 映像上映 13:00～(約80分)

中根秀夫の旧作映像と『もういちど秋を』（詩 武田多恵子/Sax かみむら泰一）の音声付きオリジナル・バージョンの上映会。

② 第2部 スペシャル・トーク「海／プロセス／言葉／地図」 15:00～16:30

梅津 元（埼玉県立近代美術館主任学芸員/芸術学）

芸術学を専門とする梅津元氏を招き、本展のテーマから触発された思考を自由に語っていただきます。また、梅津氏が手がけた展覧会や著作等を紹介し、展覧会の企画についても議論します。

中根秀夫 映像上映プログラム

インスタレーションの記録および作品を補完するメディアとして2000年頃から映像を使い始める。2016年に初めて独立した作品としての映像『もういちど秋を』を武田多恵子（詩）とかみむら泰一（音楽）とともに制作し発表。

1. うつくしくにのほなし - a tale of a beautiful country / 2014 / 14:45

@GALERIE SOL / 即興演奏：かみむら泰一

「2013年9月1日。福島県双葉郡楡葉町前原・山田浜地区は、木戸川の河口南東方向に広がる集落だ。鮭が遡上する小さな河川と豊かな自然に育まれた土地と聞く。日曜日だが国道沿いの民家に人影は見られなかった。」2014年に震災の記憶をもとに構成した『うつくしくにのほなし - a tale of a beautiful country』展でのかみむら泰一の即興演奏と中根のインスタレーション。

2. 子供の情景 - Klinderszenen Project (Ver. 2017) / 2001, 2002 / 05:22

@Woodlands Art Gallery / London), Trinity Theatre & Arts Centre / Tunbridge Wells

最初期の映像作品。「子供」も「情景」も、リリカルな言葉だと感じるのは実は錯覚であって、制度による内部への囲い込みが虚像を作り出す装置として働くだけの理由である。ロベルト・シューマンのピアノ曲「子供の情景」をオルゴールのカードに打ち込む。カード差し込む方向によって再生される音楽が変わる。

3. 鏡の中の - im Spiegel / 2012 / 02:46

@GALERIE SOL

『鏡の中の - im Spiegel』展でのオルゴール作品。アルヴォ・ペルトの「鏡の中の鏡」全曲をオルゴールのカードに打ち込むと、10分の曲はカードにして6メートルの長さにもなる。メビウスの輪のように一度ひねって閉じると、表から裏へ、そして裏から表へと繰り返される。ルイス・キャロルの『鏡の国のアリス』では鏡の国はチェスボードの「表面」の移動として描かれる。哲学者ジル・ドゥルーズによれば、「表面」という概念はキャロルによって『不思議の国のアリス』から『鏡の国のアリス』に移行する間で見いだされたも

のだという。またそれはどこか「メビウスの輪」をも思い出させる。キャロルの最後の小説『シルヴィーとブルーノ』でドイツ人の老人がミュリエル嬢に語る幸運の財布は、ハンカチの端を不思議なやり方で縫い合わせることで外部表面が内部表面と繋がり、結果的に世界の全てを内包してしまうのである。表面の裏側はまた表面である。

4. Mellow Yellow in the Mirror / 2012 / 14:44

@GALERIE SOL / 即興演奏：かみむら泰一

『鏡の中の - im Spiegel』展の会場でかみむら泰一が即興演奏をし、そのイメージ（イマージュ）を再構成した。かみむらとの初めてのセッション作品。「イマージュというフランス語由来の日本語がいまだ有効かどうか。イマージュという言葉がなにかダイヤモンドの表面のようにまばゆく光を反射していた時代は確かにあったのだ。それは私に、幼い日の日常の、決してモニュメンタルではない、しかし何故か記憶の片隅に刻まれ、ふとした拍子にこぼれ落ちてくるそれを思い出させる。」

5. もういちど秋を - try to remember / 2016 / 40:52

@GALERIE SOL / 詩：武田多恵子 音楽：かみむら泰一

武田多恵子の3つの詩集「麦の耳」（1986年）、「流布」（1993年）、「蜜月」（2013年）から20編の詩を抜粋し、1年の季節を巡るように5つのユニットに仕分け、「もういちど秋を」という序章を加えて再構成された。武田の詩に、サクソ奏者かみむら泰一が音楽、中根が映像を担当し1年間をかけて制作された。ひとつの詩はひとつの時間を孕みながら、他のもうひとつの詩とその時間に接続する。詩の中の時間はそれぞれの記憶を持ち、その記憶はひとつの詩という枠を超え、過去とも未来とも自由に接続することが出来る。ひとりの作者の記憶はもうひとりの者の記憶へと接続され、その記憶はさらにまたひとりの別の記憶とつながり合わされる。そのようにして、記憶は少しずつそのポジションを変えながら私たちの空間を拡張し、またそれを満たしていく。今回の『海のプロセス—言葉をめぐる地図（アトラス）』展の会場では無音声のインスタレーションとして展示している。

中根秀夫 NAKANE Hideo

1992年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業

1993年 ブリティッシュ・カウンシルの奨学金を取得。渡英

1995年 The Slade School of Fine Art 大学院絵画科修了 イギリス国内で展覧会に参加。

1996年帰国後、厚木市文化会館主催の個展、VOCA展97（上野の森美術館）、The London Groupのメンバーとしてロンドンでの展示他、国内外でグループ展等へ参加する。2004年からはGalerie SOL で継続的に個展を開催する。2014年 池内晶子との写真展「a white Day」（Café & Galería PARADA）、かみむら泰一（Sax 即興）とのDVD製作「Mellow Yellow Project」など、企画性の強いプロジェクトに携わる。2015年 平田星司と共同企画「Aesthetic Life - Automatic」展（トキ・アートスペース）、2016年 武田多恵子（詩）かみむら泰一（Sax）との共作の映像「もういちど秋を」（Galerie SOL）など。